

技術・家庭科（家庭分野） 学習指導案

1 対象・日時 2年C組 令和3年2月19日(金) 1校時

2 本題材で育成したい資質・能力（評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①衣食住の生活における日本の生活文化の継承について理解している。	①日本の生活文化の継承について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、日本の生活文化の継承について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

3 題材「思いをつなげる和の暮らし」について

本題材は、『新学習指導要領』「B衣食住の生活」の（3）（4）（6）に当たり、見方・考え方である「生活文化の継承・創造」の視点から衣食住の生活について考え、領域を横断して総合的に家庭分野の学習を深められるような内容とした。

現在はグローバル化が進み、外国の文化が多く入ってきている。外国の文化は日本の伝統的な生活様式に様々な影響を与え、大きな変化をもたらした。一方で、日本の和食は海外でも多く食されており、2013年には「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録された。今後は、私たち一人一人が伝統文化の継承者としてだけでなく、新たな文化の創造者であることの自覚が求められている。生徒には、このような課題を自分事として捉え、生活文化の継承・創造のために自分にできることを考え、実践できる力を身に付けさせたい。

そこで、本題材では「生活文化の継承・創造について、自分たちにできることを考えよう。」という課題を軸に、授業を進めていく。「伝統は受け継いでいくもの」というストーリーを押し付けるのではなく、自分たちで工夫しながら思いをつないでいけるように構成したい。授業のはじめに、「生活文化を受け継ぐことのよさと難しさの両面」について考えさせ、日本では様々なものを通して「思い」をつないできたことに気付かせる。その後、自分の生活を振り返って課題を見つけ、自分たちにできることを考えていく。「和の暮らしのスタイルブックを作ろう」の活動を通して、課題を解決するための視点を書き溜めていき、自分の生活を見直して見つけた課題について、計画を立てて実践できる力を育成していきたい。

4 生徒の学びの履歴

1・2年生では、『新学習指導要領』の「A家族・家庭生活」（1）（3）、「B衣食住の生活」（1）～（7）、「C消費生活・環境」（1）（2）について学習した。3年生に向けて、「A家族・家庭生活」（2）幼児生活と家族の学習を残すばかりである。

これまでの様々な学習の中で、折に触れて「生活文化の継承・創造」の視点で考える機会を設けてきた。例えば食生活の学習では、和食とは何かについて考えたり、考えたことを踏まえて実際に調理したりした。衣生活の学習では、浴衣を自分で実際に着装したり、和服の模様に込められた思いを考えたりした。住生活の学習では、和式と洋式の住まい方を比較してそれぞれの工夫に気付いたり、日本の伝統的な住まい方の工夫を現代に生かすために何ができるかを考えたりした。

そこで、これまで学習してきた知識や技能を生かして個人の課題を解決していく中で、「生活文化の継承・創造」について自分なりに工夫ができるように、指導を行っていきたい。

5 資質・能力育成のプロセス（5時間扱い）

次	時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【 】内は評価方法及び Cと判断する状況への手立て
1	1	<p>思① 日本の生活文化の継承について、問題を見いだして課題を設定している。(○)</p> <p>態① 日本の生活文化の継承について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(○)</p> <p>知① 衣食住の生活における日本の生活文化の継承について理解している。(○○)</p>	<p>【ワークシートの記述の確認】 C：自分の生活を振り返らせ、自分が取り組めていない視点を基に課題を設定するように促す。</p> <p>【発言の確認】 【行動の観察】 C：自分の課題の解決に向けて、どのような力を身に付けるべきか考えさせる。</p> <p>【ワークシートの記述の確認・分析】 C：今までの学習を思い出したり、自分の生活を振り返ったりしながら、考えるよう促す。</p>
	2 4	<p>態① 日本の生活文化の継承について、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(○)</p> <p>思① 日本の生活文化の継承について、実践に向けた計画を考え、工夫している。(○)</p> <p>思① 日本の生活文化の継承について、実践を評価・改善している。(○○)</p>	<p>【ワークシートの記述の確認】 C：生活文化を受け継いでいくための工夫を整理して記入するように促す。</p> <p>【ワークシートの記述の確認】 C：生活文化を受け継いでいくために、何ができるのか考えさせる。</p> <p>【ワークシートの記述の確認・分析】 C：今後も行っていきたいことを、具体的に記入するように促す。</p>
	5	<p>態① よりよい生活の実現に向けて、日本の生活文化の継承について、工夫し創造し、実践しようとしている。(○○)</p> <p>思① 日本の生活文化の継承についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを根拠や理由を明確にして説明したり、発表したりしている。(○○)</p>	<p>【ワークシートの記述の確認・分析】 C：これまで積み重ねてきた学習を振り返り、自分の生活に生かせそうな新たに増えた視点がないか、考えさせる。</p> <p>【ワークシートの記述の確認・分析】 C：今までの学習を踏まえて、自分の考えを具体的に記入するように促す。</p>

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<ul style="list-style-type: none"> ・「生活文化は受け継いだ方がよい」と「生活文化を受け継ぐのは難しい」では、どちらの気持ちが強いかを考えてスケールに記入し、意見を交流する。 ・「日本人が大切にしてきたもの」を考え、クラスで題材名を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【貫く課題】生活文化の継承・創造について、自分たちにできることを考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・生活文化について振り返り、個人の課題を設定する。 ・学びのプランを用いて、題材の見通しをもつ。 ・今までの生活文化に関わる学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの手引きで、見方・考え方である「生活文化の継承・創造」に係る学習をすることを伝える。その後、生活文化を受け継ぐことのよさと難しさの両面について考えさせる。 ・道徳や社会での伝統文化の学習や、和食で学んだ年中行事を思い起こしながら考えさせ、「思い」をつないできたことに気付かせる。 ・レーダーチャートを用いて、衣・食・住生活、消費生活、家族・家庭生活から和の暮らしを振り返り、個人の課題を設定させる。 ・課題を解決するための視点を書き溜めていくように促す。ワークシートには、自分の課題を解決するために必要だと思うことを書き溜めさせたり、毎回の授業で交流する時間を設けたりする。 ・生活文化を学習する意味を共有した上で、身に付けたい資質・能力を確認させ、学習の見通しをもたせる。 ・今まで学習してきたことを、イメージマップを用いて整理させ、その後交流をすることで視点を広げさせる。 	1
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【課題】和の暮らしのスタイルブックを作ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに未来につなげていきたい和の暮らしを考える。 ・考えた構成をブラッシュアップするために、アドバイス交換会を行う。 ・ブラッシュアップした構成を踏まえて、スタイルブックを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の大きな特徴である四季（春夏秋冬）を用いて、班ごとに担当を決めて考えさせる。 ・班ごとにテーマを設定し、テーマに基づいた内容になるよう考えさせる。 ・もっと詳しく知りたいことはないか、学んだ内容が活かされているかなどについてアドバイスを交換し、班ごとに構成を再考させる。 ・デジタルコンテンツになるよう、PowerPointで一人一枚スライドを作り、ナレーションを入れて、班ごとに動画を作らせる。 	2 4
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの班が作ったスタイルブックを共有する。 ・学習を通して考えた「生活文化の継承・創造」について、自分の考えをまとめる。 ・共有したことを踏まえて、「今の自分にできること、社会に向けてできること」について、ワークシートに記入する。 ・班で相互評価を行い、自分の記述を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Streamで全クラスのスタイルブックを共有し、コメント機能を用いてフィードバックさせる。 ・改めて、今まで書き溜めてきた視点を見返し、自分が考える「生活文化の継承・創造」についてまとめさせる。 ・自分で立てた課題を解決するための手立てが得られたか、今後どのようなことを意識していきたいかを踏まえ、レーダーチャートに記入し、考えをまとめるように促す。 ・学習を踏まえた視点が入っているか、行う内容が具体的かなどについて確認するよう促す。 	5

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

「生活文化の継承・創造」について考え、自分の生活を見直して課題を見つけ、計画を立てて実践しようとする姿。

【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

これまでの「衣食住の生活」の学習で得た知識や技能を基に、本題材の課題を解決していく。そこで、これまでの生活文化に関わる学習を振り返り、イメージマップを用いて整理させ、その後交流をすることで視点を広げさせる。また、それぞれの学習の中では、思考ツールを用いて情報を整理したり、体験的な学習を取り入れたりすることで、学んだ知識を自分の生活に合わせて選択できるように工夫している。評価する際は、これまでの学習を「生活文化の継承・創造」の視点で整理できているか、ワークシートの記述内容を見取るようにする。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

レーダーチャートを用いて自分の生活を振り返って課題を見つけ、「生活文化の継承・創造」とは何かを考えながら、自分の課題が解決できるような題材構成にしている。自分の生活に結び付けて考えたり、仲間と考えを共有したりする学習を通して、自分なりの「生活文化の継承・創造」について考え、実践につなげられるようにしていきたい。学習の最後に、今の自分にできることや社会に向けてできることについての具体をまとめて相互評価を行い、ブラッシュアップした記述を見取るようにする。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

思考の変容が可視化されるように、一枚式のワークシートを使用している。「生活文化の継承・創造」とは何かを考えるためにヒントになること、自分の課題を解決するために必要だと思うことを、衣・食・住生活、消費生活、家族・家庭生活の視点でワークシートに書き溜めさせ、毎回の授業で共有する時間を設けるようにする。教師はよい視点到線に引いたり、アドバイスが必要な場合はコメントを書いたりして、生徒が粘り強く取り組み、自己調整が行えるようにする。

○「考えるための技法」を用いた言語活動の充実

レーダーチャートを用いて自分の生活を振り返り、解決したい課題を見つけ、学習の**見通し**をもたせる。見方・考え方である「生活文化の継承・創造」がどのようなことなのか考えられるようにするために、思考ツールを用いて**関連付け**たり、**多面的・多角的**に考えたりできるようにする。学習後、考えたことをどう実践していくか**具体化**できるよう、学習の中で必要な視点を書き溜めさせたり、毎回の授業で交流する時間を設けたりする。

【本題材での指導事項】 ※（既習）は既習事項

- ・地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできること。（既習）
- ・衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。（既習）
- ・家族の生活と住空間の関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。（既習）

【本題材における、総合的な学習の時間（TOFY）とのつながり】

- ・家庭分野の「生活を工夫し創造する能力」を身に付けることで、生活を見直して課題を見つけ、その解決を目指して生活をよりよくしようとする力が育成される。そのため、TOFYの活動における、課題を見つけ考えながら解決し、最後に振り返る力につながる。